

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 181 回 楽しいだけのクリスマス～クリスマス雑感

2006.12.24

今日、12月24日はクリスマス・イヴである。街中にイルミネーションが溢れ、子供達は冬休みに入り、待ちに待った楽しい1日である。デパートもケーキ屋さんも、マスコミや音楽界もクリスマス商戦に躍起になり、国を挙げてウキウキした、最高に楽しい日である。そんな日に屁理屈言うことあるまいに…。素直に楽しめばいいことである。

クリスマスはイエス・キリストの降誕を祝うキリスト教の記念日・祭日である。まがりなりにも仏教徒の小生が、お気軽に、フワフワしていいのだろうか？ 根が真面目な小生ゆえ、つい悩んだりしている。早速調べてみるのが小生のヘンな癖である。

イスラム教徒は、主要な預言者イエスの生誕として、クリスマスを祝う。欧米諸国はもちろんのこと、儒教が国教の韓国では、クリスマスが法定祝日になっている。ユダヤ教も「メリー・クリスマス」に変えて「ハッピー・ホリデイズ」のグリーティングカードでこの時期挨拶を交し合う。我国に限らず、世界中の多くの国がクリスマスを祝い、楽しんでいるようである。そういえば先日、ロータリークラブのクリスマス会に、臨済宗のご住職様も参加していたこと思い出し、何とか小生の悩みは解決された。

日本人男女を対象とした2005年の調査によると、クリスマスは「家族で楽しむ日」との答えが6割と圧倒的だった。諸外国はマチマチだが、キリスト教の国では1月1日までクリスマス休暇、宗教行事とともに家族でゆっくりするのが通例であるというのが多いようだ。若年層の独身者、日本の7割の独身男女は「クリスマスは恋人と過ごしたい」と考えている。このような「クリスマスは恋人と過ごす日」と言う風潮は、どうも、日本だけのようである。

新約聖書には、イエスの誕生日に関する記載はどこにもない。諸説色々であり、なぜ12月25日かは専門家に任せよう。英語のChristmasの語源は、「キリストのミサ」(Christ+mas)にある。Xmasという表記は、ヘブライ語のメシア(油注がれた者)のギリシャ語訳である「キリスト」の原表記「 $\chi\rho\iota\varsigma$ 」の頭文字を取ってXを「Christ」を表す略記としたものである...とこの程度は書いておこう。

最後に一言、現在のローマ教皇であるベネディクト16世は、『現代の消費社会の中で、この時期が商業主義にいわば「汚染」されているのは、残念なこと。』という声明を發表している。降誕祭の精神は、「精神の集中」と「落ち着き」と「喜び」であり、この喜びとは、内面的なもので、外面的なものではないとしている。(教皇ベネディクト十六世の2005年12月11日の「お告げの祈り」のことば)

楽しいだけのクリスマス...そんな1日でもいいのだろうか？ 小生、また悩んでしまう。